

【奨 励 賞】



氏 名 PHAM NGOC LINH
(ファム ゴック リン)

国・地域 ベトナム 

在日期間 1年3ヶ月

学 校 九州日本語学校

タイトル : 私はお母さんが嫌い

みなさん、世界で一番好きな人は誰ですか。お父さん、お母さん、恋人。多分、お母さんが一番好きだという人が多いと思います。しかし、私は違いました。

「私はお母さんが嫌い」昔、そんなメッセージを紙に書いて、母が見えるように本棚に置いておきました。私の母はとても厳しく、いつもいつも「勉強しなさい。」と言いました。小学校に入る前に、私は字を書くことを覚えました。まだ6歳なのに、遊ぶ時間がほとんどありませんでした。学校から帰ったとたん、母から「今日は何点を取ったの?」と聞かれました。だから、私はいつでも緊張していました。母の関心は、点数だけではありませんでした。「順番は?」「なぜ満点じゃないのか。」「なぜ、ここを間違ったのか。」幼い子供にとって、本当に辛い毎日でした。数学の点数が学校で1番になるように、小学1年生が終わったら、すぐ九九の表を全部覚えさせられました。学校は夏休みなのに、私にとって家が2番目の学校でした。普通、娘はお母さんとよく話すと思われています。でも、私と母はそんな関係じゃありません。話し出すや否や、ケンカになります。私は13歳になるまで「母は私のことが嫌いなのだ。」と思い込んでいました。

あの日、母は「お母さんが嫌い」という私からのメッセージを見て、泣きました。私は、そんな母を見られたら嬉しいと思っていたのに、母の涙を見ると心が痛くなりました。でも、私は頑固なので、「ごめんなさい」とは言いませんでした。その日の夜、寝る前に色々なことを考えました。

私の子供の頃、家計は苦しく、家族の生活は大変でした。でも、字が読めるようになった私に、毎日母は新聞を買ってくれました。それに、早く九九の表を覚えたおかげで勉強が簡単になりました。数学の点数が学校で1番になり、学校からプレゼントや奨学金も貰いました。田舎に住んでいる子供は、小さい時から家事や農業の仕事などしないといけない人が多いです。でも、母は私に何もさせませんでした。勉強が終わったら、テレビを見ても大丈夫と言われました。家計が苦しかったにもかかわらず、私は新しい服を本当によく買って貰いました。でも、母の服は丈夫なのか、全然買い替えることはありませんでした。お正月の時でも、母は自分のために新しい服を買いませんでした。

家計がよくなったとき、母が自分の服を買ったのを見て、私はびっくりしました。本当は母も綺麗な服が好きなのだと知りました。

その後、私は大学生になり、家を離れました。母は私に会いたがり、家にいなくても新しい服を買ってくれました。顔を合わせれば相変わらずケンカになるけど、私は母を嫌いだと思わないようになりました。私が日本に行く時、母は2日泣いたそうです。母は私を嫌いではなく、大好きなのです。

今、私は日本にいますが、母はいつも私のことを考えています。「リンちゃん、きれいな服を見つけたよ。買ってあげようか。」と電話をかけてきます。大人になった今、私も色々なことが分かるようになりました。母が厳しいのは、私を心配していればこそ。だから、母はもう忘れたかもしれませんが、母にあのメッセージのことを謝りたいです。そして是非伝えたいと思います。「お母さん、私はお母さんが大好きです。」